



平成 29 年 5 月 12 日

各 位

会社名 株式会社 ヨ コ オ
代表者名 代表取締役兼執行役員社長 徳 間 孝 之
(コード番号 6800 東証第 1 部)
問合せ先 執行役員常務管理本部長 横 尾 健 司
(TEL 03-3916-3111)

営業外費用の計上、税金費用の減少、連結業績予想値と実績値との差異
並びに個別業績と前期実績との差異に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期第 4 四半期連結会計期間における営業外費用（為替差損）の計上、同連結会計年度における税金費用（法人税等調整額）の減少、連結業績予想値と実績値との差異並びに同事業年度における個別業績と前期実績との差異につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

当第 4 四半期連結会計期間（平成 29 年 1 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）において、急激な為替相場の変動により、為替差損 159 百万円を営業外費用に計上いたしました。

第 3 四半期連結累計期間（平成 28 年 4 月 1 日から平成 28 年 12 月 31 日まで）においては為替差益 221 百万円を計上済みであるため、当連結会計年度（平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで）においては為替差益 62 百万円を営業外収益に計上しております。

2. 税金費用（法人税等調整額）の減少

次期（平成 30 年 3 月期）以降の課税所得増加の見込みを踏まえた繰延税金資産計上額の増額などに伴い、当連結会計年度において税金費用（法人税等調整額）△566 百万円を計上いたしました。

これにより、当連結会計年度における法人税、住民税及び事業税 533 百万円と合わせた法人税等合計は△32 百万円を計上しております。

3. 業績予想値と実績値との差異

(1) 差異の内容

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 29 年 2 月 8 日公表)	百万円 43,000	百万円 2,500	百万円 2,350	百万円 1,800	円 銭 89.96
今回実績 (B)	44,077	2,516	2,608	2,381	118.94
増減額 (B-A)	+1,077	+16	+258	+581	—
増減率 (%)	+2.5	+0.7	+11.0	+32.3	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 3 月期)	39,998	1,057	822	412	20.61

(2) 差異が生じた理由

売上高につきましては、車載通信機器／回路検査用コネクタの両セグメントにおける受注が業績予想の前提とした受注見通しを上回ったこと、為替相場が想定より円安となったことなどにより、予想値を上回りました。

営業利益につきましては、平成 29 年 3 月 13 日付公表「特別損失の計上に関するお知らせ」の「2. 業績に与える影響」に記載したとおり、和解に伴う特許実施許諾料支払いがあったものの、上記の増収に伴う増益などにより、予想値水準となりました。

経常利益につきましては、業績予想にて為替差損 150 百万円を想定していたところ、新興国通貨安に伴い為替差益 62 百万円を計上したことなどにより、予想値を上回りました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、経常増益並びに上記 2. に記載の税金費用の減少などにより、予想値を大幅に上回りました。

4. 個別業績と前期実績との差異

(1) 差異の内容

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A) (平成 28 年 3 月期)	百万円 34,244	百万円 42	百万円 268	百万円 234	円 銭 11.74
今回実績 (B)	36,113	438	702	870	43.45
増減額 (B-A)	+1,868	+396	+434	+635	—
増減率 (%)	+5.5	+926.4	+161.7	+270.5	—

(2) 差異が生じた理由

主に車載通信機器製品の国内販売が伸長したことにより、営業利益が前期比で大幅な増益となりました。経常利益は、受取配当金減少の一方、為替差損減少などにより、前期比で増益となりました。当期純利益は、上記 2. に記載の税金費用の減少などにより、前期比で大幅な増益となりました。

以 上